



春江中だより

【は】っけん・気付く つなげ【る】 【え】がおを創り出す



春江中学校 教育目標

- 1 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 2 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 3 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

桜梅桃李 ～自分らしい個性豊かな花を咲かせよう～

校長 横枕 耕史

今年度の合唱コンクールは、タワーホール船堀大ホールを借用して開催いたしました。実行委員会スローガン「桜梅桃李」のように、春江中生一人ひとりが美しい花を咲かせるように、各学年・各学級で練習を積み重ね創り上げた美しいハーモニーをホール中に響かせ、会場の聴衆に感動を与えた素晴らしい行事になりました。

スローガンの「桜梅桃李」とは、桜・梅・桃・スモモのそれぞれが美しい花を咲かせるように、他人と自分を比較するのではなく、個性を磨き自分らしく生きようという意味があります。生徒を花に喩えるならば、将来、どんな場所でどのような花を咲かせるのか、とても楽しみです。開花の時期は人それぞれで花咲く時期まで年月がかかる場合もあるかもしれませんが、たくさんの栄養を吸収し大きく成長してほしいと願っています。

草木が十分に育つには、柔らかく耕され肥えた土壌、成長に必要な量の日光、水、気温などの条件が必要です。また、草木が育つ場所は、鉢やプランター、花壇、畑、管理された温室やビニールハウスなど様々です。そして、成長に適する環境は種類によって異なり、サボテンなど果肉植物は温暖で乾燥した環境、苔やシダ植物は日陰の湿地、水草は水中などと様々です。何か一つでも条件や環境のバランスが崩れると成長に影響することがありますが、悪条件の環境でも育つものがあります。例えば、あるトマト栽培農家では収穫量が減ることを承知の上で与える水をわざと減らし味濃く美味しいトマトを栽培している話を聞いたことがあります。また、道路のアスファルトやコンクリートの隙間から芽を出し大きく育つ草木の生命力の強さを感じることがあります。どんな逆境に身を置かれても、あきらめなくて逞しく変容して生きる姿に、強い生命力を感じます。

日本には古来より茶道や武道などの修行で伝わる「守破離」という言葉があります。基本の型を身に付ける「守」の段階、型を破り応用する「破」の段階、それらに創意工夫を加え自分独自のものを追求する「離」の段階があります。どんな道でも段階的に修行を重ね極めることが必要です。

「守」の段階にいる中学生は学校という型に合わせ集団生活しています。その中で求められる同質性や同調圧力に苦しんだり、学業や人間関係などに不安を感じたり、自分の個性と学校が合わなく居づらく感じる生徒もいます。たとえ「守」の段階の厳しさや苦しさを感じて、生徒一人一人が自分なりの目標をもち、多様な個性を表出し、周囲から認められることで自身の成長を実感でき、楽しく学ぶ環境を整えていきたいと考えます。

学校では、多様性を尊重し、褒められることで高まる自尊感情や、他の人の役に立ち喜んでもらったことで高まる自己有用感を学校生活の中でも醸成しています。まず、生徒や教職員に「誉め言葉5S(さすが・すごい・すてき・すばらしい・それイイね)」を掲げ、周囲の人をお互いに誉めようと呼びかけました。次に授業では、個々の生徒が「自分も大切にされている」という自己存在感を感受できる場、相手の立場に立って考え行動できる共感的な人間関係を育成する場、生徒が自分で考え選択し決定する自己決定の場の提供、一人一人が個性的な存在として尊重される安全・安心な風土の醸成を踏まえ、どの生徒にも分かる授業、面白い授業を目指し、授業改善を進めていきます。

現代社会では他とは異なる個性豊かな人材が求められています。生徒が学校にいる間に社会性を獲得し個性を伸長させ、悪条件の環境でも逞しく生きる力を身に付け、未来で自分らしい個性豊かな花を咲かせてほしいと願っています。